

症例情報の収集と活用を推進する

OPD支援ツール

症例情報の収集と症例データベースの活用により、MRのOPDの実践をサポートします。

OPD :One Patient Detailing (患者様ひとりひとりの治療に役立つディテリング)

目的 (導入効果)

1. 医師とのコミュニケーション促進

- 薬剤ベースではなく、患者ベースのコミュニケーション
- 医師の考え方を理解することによるコミュニケーションの深化

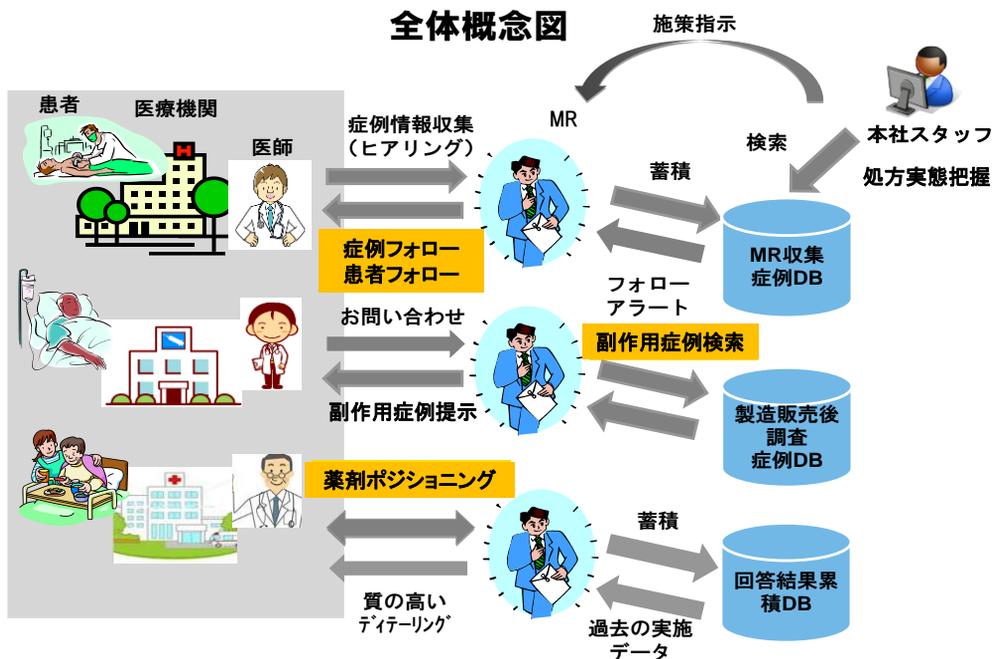
2. 患者様の治療に貢献

- 症例ごとのきめ細かなフォロー
- 処方への根拠となる参考情報の提供

医師との関係性向上

売上アップ

全体概念図



1. 症例フォロー

<概要>

MRが自担当施設での自社薬剤処方症例についての情報を収集し、医師と共有することで、患者様の状況や治療プロセスに応じた適切な処方を支援する。

<効果>

- ・医薬品適正使用への貢献
- ・既処方症例の維持、脱落防止

画面イメージ



2. 副作用症例検索

<概要>

副作用発現状況について、症例ベースで、具体的に医師に示すことにより、処方判断の参考にさせていただく。医師への提示ということから、製造販売後調査で収集した症例DBより検索する。

<効果>

- ・医療安全の向上、適正使用推進に寄与

画面イメージ



3. 患者フォロー

<概要>

医師から具体的な患者様をイメージした情報を収集し、患者様のQOL向上に役立つ情報提供を支援する。収集した情報を記録することにより、そのフォローを確実に行う。

<効果>

- ・医師とMRが連携した患者QOLの向上
- ・医師とのコミュニケーション促進、信頼関係の構築

画面イメージ



4. 薬剤ポジショニング

<概要>

医師が治療する患者像、処方傾向、薬剤に対するポジショニング（安全性・有効性など）を対話的に情報収集できると同時に、回答に応じた適切な資材の選択を可能にし、効果的なディテリングの実施を支援する。

<効果>

- ・医師のブランド評価、使い分けの根拠などを理解
- ・医師の考え方に合わせたディテリング

画面イメージ

